



碧南ロータリークラブ週報

第2291回例会 平成17年11月9日(水)

● 会長 岡田 起勇 ● 幹事 亀山 裕一 ● SAA 長田 豊治

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL (0566) 41-1100 FAX (0566) 48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聡之・岡本明弘

超私の奉仕

2005~2006年度
国際ロータリーのテーマ



● 斉唱

ロータリーソング「我らの生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



岡田起勇会長

会長挨拶

本日は不動産関係の地価の情勢についての、話をしたいと思います。

今日お話しするのは、愛知県の基準値です。愛知県の土地価格について地価調査がされまして、その結果が発表されました。これは愛知県の74市町村1,019地点について、1㎡当たりの標準価格を判定したものです。基準日は平成17年7月1日です。これは毎年調査が行われ、昨年の価格と比較して、どの程度地価の変動があったのか調べるものです。碧南市も13の地点の土地評価が出されました。

本年は愛知県の住宅地は2.1%の下落、商業地も2.0%の下落です。下落幅が大分少なくなっています。また名古屋市では、住宅地は0.2%の下落でしたが、商業地は13年ぶりに0.6%の上昇となりました。これを詳しく見ますと、平均変動率の累積値を昭和58年(バブルの引き金になった初年度)を100とすると、愛知県では住宅地は106、商業地63です。またピーク時からの累積変動率は住宅地は40.3%下落、商業地70.5%下落となりました。

名古屋市の場合、昭和58年を100とすると、住宅地は93、商業地は53となり約半値になった訳です。ピーク時と比較すると住宅地は56.5%下落、商業地は80.5%下落となりました。

住宅地の上位5市をみると、1位名古屋市、2位刈谷市、3位長久手町、4位安城市、5位知立市です。上位5市の中に西三河が3市も入り、西三河の地価は高水準になっています。

碧南市の住宅地に付いては、市役所周辺の松本地区の評価が高い2点を含めると平均1㎡83,000円になりますが、それを除くと平均75,900円です。ただし大浜下区の住宅地の評価が入っていないので、実際はもう少し安いだろうと想像されます。県の平均は、住宅地1㎡99,000円ですので、比較すると碧南市の住宅地の地価はかなり安いとデータからも解ります。

他に住宅地として依然下落率の高いのが、南知多町の昨年度14.1%、本年度9.7%と美浜町の昨年度11.8%、本年度8.0%です。名古屋市から遠く離れた地域に下落が続いています。

名古屋市の住宅地は千種区、瑞穂区、昭和区、東区、名東区の5区が上昇していますので、住宅地としては少しの下落率です。その様な訳で、ようやく地価は沈静化してきたように感じます。

しかし、中村区の名駅あたりはまたバブルが再興しそうで、1年間で30%も近い値上がりをしています。今後も地価の動向に注意して頂きたいと思います。

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・過日お願い致しましたチャリティバザー用品は10/26に61点、11/2に52点会員の皆さんよりお持ち寄りを頂きました。これらは来る11/12,13に開催される市民ふれあいフェスティバルで販売され、収益金は社会福祉協議会の福祉事業に活用されます。ご協力有り難うございました。
- ・今日例会終了後201号室に於いて第5回理事会を開催致します。役員、理事の方はご出席下さい。



亀山裕一幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 78 名 (内出席免除者 15 名) 出席者 58 名	
出席対象者 49 / 63 名	出席率 77.78%
欠席者 20 名 (病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 加藤 良邦君 11 / 3 秋季大祭お陰様にて無事に終える事が出来ました。
- 植松 敏樹君 先日全国公平委員会連合会より 8 年表彰を頂きました。有り難うございました。
- 鈴木 敏弘君 この度、社長を息子 (鈴木清晃) に変更し、社名も鈴木窯業 (株) をベルウッド (株) へ変更させて戴きました。今後ともよろしくお願い致します。
- 伊藤 正幸君 本日卓話をさせて頂きます。

卓話

「噛み合わせについて」 会員 伊藤正幸

ほとんどすべての方々は、歯科に対して「怖い」「痛い」というイメージを持っています。虫歯で歯に穴があき、ずきずき痛むことはもちろん、歯周病で歯ぐきが腫れたり、親知らずのために口が開けられなくなったり、ほとんどすべての歯科的なことがらは痛みを伴って、私たちを苦しめます。



伊藤正幸君

治療においても、歯を削ることからはじまって、神経を抜くとか、歯を抜くとか、歯ぐきから出血するとか、歯ぐきからうみが出るとか、ほぼすべてについて、ネガティブなイメージ、嫌なイメージをもつことが否めません。

そうしたなか、歯科医師過剰時代を迎え、このマイナスのイメージを取り払おうと、また、歯を削ったり抜いたりしないで、一生自分の歯で食事が出来るようにと、8020動が提唱され、また、予防歯科という言葉も市民権を得るようになってきました。また最近の傾向としては、健康的、若々しいといったイメージを求め、審美歯科、歯のホワイトニングが脚光を浴びています。特にインプラントは、ここ数年の間に広く多くの方々の認知されるようになりました。

失った歯の部分を、人工の土台を顎の骨に埋め込むことによって歯を再生させるというもので、従来の入れ歯に比べ格段に使用感、装着感の改善が見られ、ほぼ天然の自分の歯と同じような感覚で、使用出来るという画期的なものです。また、自分の粘膜組織、あるいは骨から、再生医療により、失われた歯周組織を再び回復させるという最先端の医療も応用されるようになっていきます。

動物実験では、歯を再生させる段階まできているようです。しかし、これらの最先端と言われる技術、治療法も、結局自分の歯を健康な状態で一生使い続けることが出来れば、宝の持ち腐れになってしまいます。つまり、これらの治療法の発想の原点は、先ほどお話した歯科のマイナスイメージから抜け出ているのではないのです。虫歯にならなければ、歯周病にならなければ、これら

の最先端技術も必要ありません。

歯科医師は、毎日、多くの患者さんの歯を削っています。いつか、歯科医師が歯を削ることのない時代がやってくるとは思いますが、いまは、歯科治療イコール歯を削ると言ってもいいほど疑いもなく、多くの歯が歯科医師によって削られています。そして、歯科医師が歯を削る、噛み合わせを調整するという行為によって、口腔心身症が引き起こされる可能性があるということが言われています。口腔心身症の患者の主な主訴は、入れ歯が合わない、噛み合わせがおかしい、味覚がおかしい、舌が痛い、口臭が気になる、歯科治療が怖い、と多岐にわたっています。気にし過ぎとか、そのうちなれるといった対応で、しっかりと対応がなされていないのが現状です。



10月12日の朝日新聞に、中学生の偏頭痛をもつものの数がおよそ5%という記事が載りました。ある統計では、子供達の2%が顎関節症による頭頸部の痛みをもつという報告もあります。顎関節症と頭痛の関係性も、これらの資料よりすくなく存在するのではと思われ、歯科的なアプローチも考慮されるべきだと思います。とくに顎関節症の誘因として、不適切な歯科治療があげられ、また不正咬合も誘因のひとつであるということは、歯科医師の責任も重大ではないかと考えられます。そのようななか、今年のはじめより、受け口の治療のために、シンプルな矯正装置が発表されました。これまで全く対応がなされなかった幼児期からの不正咬合に対応出来る矯正治療が手軽に臨床応用出来るようになりました。

この画期的な装置が噛み合わせに不具合をもつ子供達の福音になればと思います。

次回例会案内 平成17年11月23日（水）は法定休日のため休会
平成17年11月30日（水）は移動例会
於 碧南市芸術文化ホール
女性合唱団 「コーロフローラ」